

若者が描く労働者協同組合・協同労働

10月26日から開会予定の臨時国会で、労働者協同組合法制定の現実味が帯びてきている。制定されると労働者協同組合ならびに協同労働の働き方が、多くの方に知れ渡り、社会的認知を広げる大きな機会となる。

そのような情勢で、未来をつくる若者が労働者協同組合・協同労働をどう描いているのかを深めることは、労働者協同組合の未来をつくる意味で大切なテーマであると考えている。それとともに協同を価値とする社会を実現するために、若者とどのように労働者協同組合・協同労働の取り組みを加速させていくのかを検討したい思いがあり、本号を編集した。

本号は3つの視点から特集を組んでいる。

第1は労働者協同組合・協同労働を「知る」視点である。寄附講座は「『協同』を価値とする社会づくりの主体者の育成」を目的に開講しているが、学生の働くことや人生と引き付けて労働者協同組合や協同労働がどのような意味を持つのかを考える機会となっている。本号では具体的実践として、千葉大学で開催した「地域で仕事をおこす-入門編・実践編」を紹介している。コロナ禍でオンライン講座として開催するなかで、学生の価値観（労働観・人間観・地域観）が劇的に変化した場面となった。具体的には「物事をお金や一人で考え完結する」視点から、「関係性・協同性・多様性・包摂性・挑戦（失敗が許される）・居場所」に着目することで、より広い視点を持つことができたことを学生の言葉で多く語られた。このような学びの背景には、多様な労働者協同組合・協同労働の実践ならびに学生同士、教員・学生の対話があり、講座で模擬的ではあるが「協同労働の雰囲気を作り出す」ことができたのではないかと考えている。

第2は、若者が労働者協同組合を「設立する」視点である。20代～30代6人で2020年2月に労働者協同組合を立ち上げた「北摂ワーカーズ」や、2020年12月に立ち上げ予定のジャーナリスト労働者協同組合「Unfiltered Coop」事務局で30代のEmi-doさんにご執筆いただいた。2つの団体の共通点として、生きづらさを抱える社会で、労働者協同組合とその働き方である協同労働が持つ「居場所・社会的包摂・オルタナティブ・連帯・団結・主体性・対話」等の性格に興味・関心を持ちながら、「自治・社会変革・民主主義」の理念で仲間が集まり、労働者協同組合を設立している点である。その意味で、労働者協同組

合のアイデンティティとは何かを2つの団体から深めることができる。

第3は、現在、労協連に加盟している労働者協同組合で「働く」20代の仲間の視点からである。労協連に加盟している労協センター事業団には2020年3月末現在で660人の20代の組合員が働いている。全体から見ると20代の割合は8.13%である*1。座談会に参加したのは労協センター事業団で働いて1年～4年の仲間である。座談会では労働者協同組合との出会いから働きながら考えていることを交流した。そのなかで「地域社会との関係性を感じる」「発言しやすい環境」「学び続ける環境」「助け合う」「人の温かさ」「一人で悩まない」とあった。また新人事務局員候補の矢野大樹さんからは、「経営・改善・相談をみんなのできる」「自由度が高くて発想を生み出す好循環がある」など、協同で仕事をする点や意見表明ができることに魅力を感じていることは、協同労働の働き方の性格を示す一つの側面だと考えている。

3点の視点を図でまとめると以下の通りになる。

[知って働く人もいれば、知って設立して働く人もいる。]

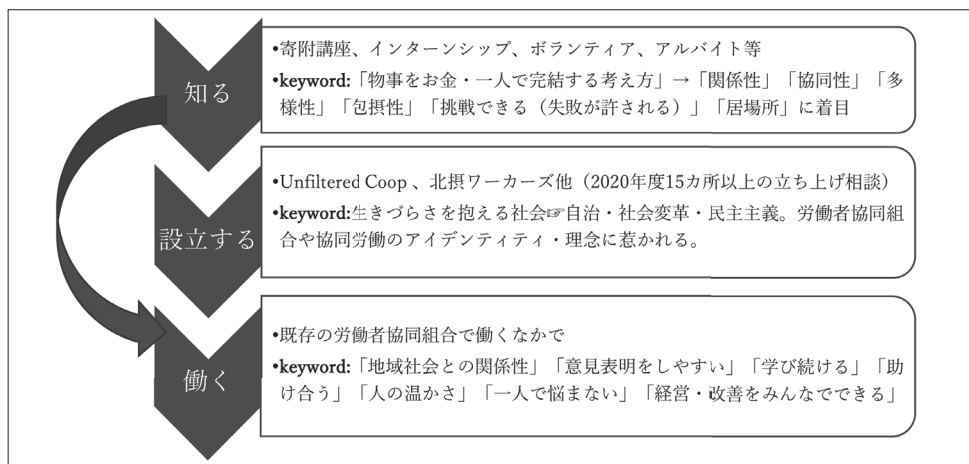


図1 20代の若者が労働者協同組合に惹かれる理由

特集を編集した立場から、20代の若者から見た協同労働は「仕事と暮らしと学び(教育)を分離せず、結合しながら人間性を包摂する社会づくり」の働き方であると感じた。生きづらい社会において、北摂ワーカーズやUnfiltered Coopは、労働者協同組合の事業性よりもアイデンティティ・理念に惹かれて設立されることは、新しい労働者協同組合の設立モデルになるのではないか。

図1のように、20代が惹かれる労働者協同組合や協同労働の魅力をより協同総研で深める・広げる研究と実践を継続的・総合的に考えていきたい。

相良 孝雄(協同総合研究所 事務局長)

*1 2020年3月末現在の労協センター事業団の組合員数は全体で6,769人。内訳は10代10人(0.15%)、20代550人(8.13%)、30代880人(13.00%)、40代999人(14.75%)、50代1,386人(20.48%)、60代1,866人(27.56%)、70代1,020人(15.07%)、80代58人(0.86%)である。